

授業科目名	現代の雇用と社会保障の法政策 Modern legal policy on industrial relations and social security
授業科目群	展開・先端科目
標準学年	2・3年次
必修・選択の区別	選択
開講学期	後期
開講曜日・時限	火曜日1時間目
単位数	2単位
担当教員名	山下昇・丸谷浩介・新屋敷恵美子・西田和弘 (Yamashita Noboru , Marutani Kosuke , Shinyashiki Emiko , Nishida Kazuhiro)
授業の目的	社会政策として、雇用政策と社会保障政策は、現代社会において極めて重要であり、高齢者、障害者、女性、育児・介護などの現代的課題について、雇用政策と社会保障政策は、密接に連携するものである。そこで、本講義では、雇用政策と社会保障政策を横断的に理解し、高齢者や女性等の権利を擁護するための知識・能力の修得を目的とする。
履修条件	特にないが、理解を促進するために、労働と法や社会保障法を履修していることが望ましい。
到達目標	カリキュラムマップ、到達目標科目対応表及び学修ロードマップを参照のこと。
授業の概要	本講義では、現代の雇用(労働)と社会保障をめぐる法制策の動向について、高齢者、障害者、女性などの観点から講義を行う。 In this course, we discuss Modern legal policy on industrial relations and social security.
授業計画	<p>第1回【テーマ】「イントロダクション」+「障害者雇用の法政策」(山下) <概要: 障害者の雇用促進や雇用差別禁止の法政策の動向を学ぶ。></p> <p>第2回【テーマ】「障害者福祉の法政策」(丸谷) <概要: 現代の障害者福祉政策の動向を学ぶ。></p> <p>第3回【テーマ】「高齢者雇用の法政策」(山下) <概要: 継続雇用制度やシルバー人材の活用など、現代の高齢者雇用政策を学ぶ。></p> <p>第4回【テーマ】「老親扶養と介護の法政策」(西田) <概要: 女性の社会進出を阻害する要因として親の介護があげられる。老親への扶養義務と介護保険制度の仕組みを学ぶ。></p> <p>第5回【テーマ】「虐待防止の法政策」(西田) <概要: 児童虐待防止法を中心に法的問題を考察し、そのうち虐待防止法制の比較検討を行う。></p> <p>第6回【テーマ】「女性の社会保険の法政策」(西田) <概要: 社会保険制度につき、出産・子育て・第三号被保険者・配偶者の死亡の各場面に着目する。></p> <p>第7回【テーマ】「ひとり親世帯の生活保護の法政策」(丸谷) <概要: 生活保護の要件、手続、就労の支援について、「ひとり親」に焦点を当てて検討を行う。></p> <p>第8回【テーマ】「女性の就労支援の法政策」(丸谷) <概要: 児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当の制度について女性の就労という観点から検討を行う。></p> <p>第9回【テーマ】「保育の法政策」(丸谷) <概要: 労働権保障と家庭生活の調和の観点から、保育システムの検討を行う。></p> <p>第10回【テーマ】「民法改正と労働法」(新屋敷) <概要: 民法(債権法)改正という大きな改革(法政策)が労働法に及ぼす影響について考える。></p>

	<p>第11回【テーマ】「雇用における差別禁止の法政策」(山下) <概要>採用・昇進・昇格、ハラスメント、雇用格差をキーワードに、女性の社会進出を妨げる人事処遇の雇用差別問題を取り上げる。></p> <p>第12回【テーマ】「妊娠・出産・子育てをめぐる雇用政策(休業・休暇・労働時間・配転を含む)」(山下) <概要>休業・休暇・労働時間・配転を含め、妊娠・出産・子育てにおいて女性が直面する雇用問題(ワークライフバランスを中心に)を取り上げる。></p> <p>第13回【テーマ】「妊娠・出産・子育てをめぐる社会保障政策」(丸谷) <概要>妊娠・出産・子育てにおいて女性が直面する社会保障問題を取り上げる。></p> <p>第14回【テーマ】「社会保障をめぐる紛争解決の法政策」(丸谷) <概要>社会保障制度における紛争解決・不服審査の手段・手続を取り上げる。></p> <p>第15回【テーマ】「就労をめぐる紛争解決の法政策」+「総括」(山下) <概要>雇用差別やマタハラ・セクハラ等の紛争解決の手段・手続を取り上げる。></p>
授業の進め方	毎回、各テーマごとに、日本の法政策の現状と今後の動向について講義を行う。講義の最後5分程度で、当日の講義の内容のまとめ及び質問・感想等についてミニレポートを作成してもらう。
教科書及び参考図書等	野田進・柳澤武・山下昇編著『判例労働法入門(第5版)』(有斐閣、2017年) 加藤智章ほか編『社会保障法(第6版)』(有斐閣、2015年)
試験・成績評価等	期末試験とレポートにより成績評価を行う。 レポートの評価60%(1回あたり4%×15回)と期末試験の評価40%の配分。 出席状況や授業態度により加点・減点を行うことがある。
事前学習	事前にTKC教育学修支援システムを通じて、参考文献等について指示することがあるので、その内容を事前に熟読しておくこと。
課題レポート等	ミニレポートは、毎回の講義の終了時に5分ほど時間をとるので、当日の講義の内容のまとめ及び質問・感想等について、A4用紙1枚で作成すること。成績評価の対象とする。
オフィスアワー	講義終了後、六本松の教員室等で質問等に対応する。
その他	岡山大学との連携科目のため、西田先生(岡山大学)の担当の回は、土曜日に3回(1日)で集中して開講する(六本松施設で開講)。他の回は、原則として毎週火曜日の1時間目を開講する。なお、西田先生の担当日は調整後、明示する。そのため、シラバスの講義順番は改めて調整する。